

STOP!ガザ虐殺

イスラエルの
侵攻に
抗議の声を!

抗議・要請先

駐日イスラエル大使館 FAX:03-3264-0792

information@tokyo.mfa.gov.il

駐日アメリカ大使館 FAX:03-3505-1862

jpn@pd.state.gov

首相官邸 FAX:03-3581-3883

<http://www.kantei.go.jp/jp/forms/goiken.html>

市民のみなさん。本日 1 月 10 日、全世界でイスラエルのガザ虐殺に対する抗議行動が行われます。昨年 27 日から始まったイスラエル軍のガザ侵攻によってすでに 800 人近くの市民が虐殺されています。その内の 3 分の 1 以上、250 人以上が子どもたちの犠牲です。イスラエル軍は、学校や病院、市場、住宅や畑など人が集まるところが容赦なく攻撃し、甚大な被害を生み出しています。

ガザ地区は種子島より少し小さい土地で、約 150 万人が文字通り中に閉じこめられています。イスラエルによって建設された巨大な壁で周りを囲われており住民は「天井のない監獄」と呼びます。地域全体がひとつの「強制収容所」となっているのです。パレスチナ人は自由に出入りが出来ず、食料や生活物資までもが封鎖され、逃げ場を失っています。そこへ海と空そして陸から最新鋭の兵器で激しい攻撃を加えられています。これは、ホロコースト（大量虐殺）以外の何ものでもありません。イスラエル軍は白リン弾、劣化ウラン弾など非人道兵器の使用さえ告発されています。

8 日の国連安保理事会では、「即時停戦」と「イスラエル軍の完全撤退」を求める決議が 15 カ国のうち 14 カ国の賛成多数で採択されました。しかしアメリカは棄権しました。アメリカは国際的な世論の前に拒否権こそ行使しなかったものの、「棄権」によって攻撃続行容認のシグナルを送っているのは間違いありません。イスラエルはそれ以降も決議を無視して大規模な軍事作戦を続行しています。そもそも莫大な軍事援助を行い、F16 戦闘機や精密誘導ミサイルなどの最新鋭兵器をイスラエルに供給し続けているのはアメリカです。アメリカは直接この虐殺に責任を負っています。

これ以上大虐殺を許すわけにはいきません。即刻攻撃を中止しガザから撤退させなければなりません。まず、何が起きているのか家族や友人と話をしてください。そして抗議の声を上げてください。少しの時間でも抗議の行動に参加してください。イスラエル大使館とアメリカ大使館、首相官邸に、攻撃中止を求めるメール、ファックスを送ってください。そのような一つ一つの市民の声が、イスラエルの蛮行をやめさせる力となるはずです。(2009.1.10.)

リブ・イン・ピース 9 + 25

(旧アメリカの戦争拡大と日本の有事法制に反対する署名事務局)

TEL090-5094-9483 (事務局 大阪) info@liveinpeace925.com

<http://www.liveinpeace925.com/>

私たちは、憲法で保障された「平和的生存権」 - - 9 条と 25 条の実現のために活動を行う市民グループです。

2月1日(日)

リブ・イン・ピース@カフェ(例会)

浅香人権文化センター

(JR 阪和線杉本町駅 10 分)

イスラエルのパレスチナ虐殺抗議

神奈川の反基地闘争

午後 1 時 ~ 4 時半